

第1日 12月3日(土)

【第1セッション】 09:00 - 10:30

A-1-1 【WS】 幹細胞・再生医療研究をめぐる STS 的研究の展開

オーガナイザー：標葉隆馬（総合研究大学院大学）

八代 嘉美（東京女子医科大学）

「iPS 細胞は何を変えたか ～幹細胞・再生医療研究をめぐる現状～」

永田 素彦（京都大学）

「意識調査からみる人工／生命観」

見上 公一（総合研究大学院大学）

「実現化と実用化への課題：有効性と安全性をどのように担保するか？」

鈴木和歌奈（京都大学）

「日本の iPS 細胞をめぐる期待の研究」

B-1-1 【WS】 科学技術のエートス——そのあり方と倫理を再考する

オーガナイザー：立花 幸司（日本学術振興会特別研究員 PD：千葉大学）

勢力 尚雅（日本大学）

「科学技術をめぐる『ネットワークする知性』について」

田坂 さつき（立正大学）、水谷 光（湘南工科大学）、生田目 昭彦（社会福祉法人訪問の家「朋」）

「障害のある人の生と科学技術のあり方—『福祉ものづくり』の実践から」

立花 幸司（日本学術振興会特別研究員 PD：千葉大学）

「科学技術の倫理と道德教育」

C-1-1 【GS】 環境・気候変動をめぐる社会的意思決定

座長：宗像 慎太郎

己斐 裕一（東京大学）、藤垣 裕子（東京大学）

「クリーン開発メカニズム事業の費用効率性と環境・社会面への影響評価の関係について」

兪 石洪（東京大学）、藤垣 裕子（東京大学）

「環境政策における合意的意思決定と市民参加の課題——中国の環境論争を例として」

柳下 正治（上智大学）、濱田 志穂（上智大学）

「ステークホルダーによる意見構造の明確化を目指した討議に対する考察」

濱田 志穂（上智大学）、柳下 正治（上智大学）

「気候変動問題を巡るステークホルダーダイアログの成立のための設計と実践」

D-1-1 【GS】サイエンスコミュニケーション①

※ 本セッションは、講演キャンセルが一件あったため、開始時刻が 20 分遅くなり、09:20 からとなりますので、ご了承ください。

座長：桃木 暁子

八巻 俊憲（福島県立田村高等学校／東京工業大学）

「福島第一原発事故に伴うコミュニケーションの特徴」

加瀬 郁子（東京大学）、大津 奈津子（東京大学）、水島 希（東京大学）、佐倉 統（東京大学）

「科学者による『脳トレ』批判の分析」

林 衛（富山大学）、難波 美帆（早稲田大学）

「『政府プロパガンダ vs オルタナティブ情報発信』福島原発報道の検証」

E-1-1 【GS】科学システムと理論

座長：藤垣 裕子

加藤 源太郎（プール学院大学）

「科学システムに対する不信は何を信頼しているのか」

関谷 翔（東京大学）

「専門知提供のコミュニケーション的リスクと危険」

萩原 優騎（東京大学）

「3.11 以後のベック『リスク社会』再読」

入江 信一郎（京都工芸繊維大学）

「『翻訳』の 3 側面と『制度的障壁』のアクターネットワーク」

【第 2 セッション】 10:40 - 12:10

A-1-2 【OS】STS 10+10 特別企画①：STS の教育プログラムの可能性

オーガナイザー：藤垣裕子（東京大学）

コメンテーター：小林 傳司（大阪大学）、加藤和人（京都大学）

廣野 喜幸（東京大学）

「科学技術論コースの創設」

梶 雅範（東京工業大学）

「理工系研究科のなかの STS 教育」

平田 光司（総合研究大学院大学）

「理系大学院教育のなかの STS 教育」

福島 真人（東京大学）

「近隣分野からの STS：文化人類学の場合」

B-1-2【GS】科学技術イノベーションと政策

座長：調 麻佐志

宮崎 正也（名古屋大学）

「工程イノベーションと企業間の力関係の変化 ～フルモールド鋳造法の事例研究」

田村 直樹（関西外国語大学）

「CD-R 価格暴落の事例」

藤本 翔一（東京大学）、藤垣 裕子（東京大学）

「中断された GX ロケット計画の意思決定プロセス」

山口 富子（国際基督教大学）

「エビデンススペースの安全性と社会との軋轢：機能性食品をめぐる問題を事例として」

C-1-2【GS】女性と科学

座長：平川 秀幸

小川 眞里子（三重大学）

「EU における女性研究者支援政策の近況について」

磯貝 恵美子（三重大学）、鶴岡 信治（三重大学）

「自動車関連の製造業における女性技術者の現状の課題と今後の展望」

高橋 さきの（翻訳者、東京農工大学、お茶の水女子大学）

「漂流する生物学決定論—性差言説と原発事故」

D-1-2【GS】教育と STS

座長：塚原 修一

平井 俊男（大阪府立港高校）

「規制科学や民族誌の視点を含む環境防災教育教材の開発」

山邊 昭則（東京大学）

「学習者から見た大学教育の課題と展望」

内山 弘美（愛知教育大学）

「大学改革と日本型リベラル・アーツ - サイエンティフィック・リテラシーに着目して -」

江間 有沙（東京大学）

「プライバシー強化技術をめぐる解釈：誰のためになぜ必要か」

E-1-2【WS】技術知と倫理の STS 的課題を探る

※本セッションは時間延長を予定しています

オーガナイザー：比屋根 均（ラーテン技術士事務所、名古屋大学）

杉原 桂太 (南山大学)

「技術者倫理と STS を統合すること」

黒田 光太郎 (名城大学)

『人類生存のための工学』へ向けての技術者教育課題」

斉藤 了文 (関西大学)

「原発技術と社会システム」

打田 憲生 (ミネルヴァ技術事務所、岐阜大学)

「法令としての技術基準の実際と、その可能性と限界」

比屋根 均 (ラーテン技術士事務所、名古屋大学)

「知的物質的創造における倫理とガバナンスの問題」

二瓶 真理子 (東北大学)、直江 清隆 (東北大学)

「工学的判断と専門知」

【昼食】 12:10 - 13:20

【第 3 セッション】 13:20 - 14:50

A-1-3 【OS】 東日本大震災と科学技術社会論：今後の学的貢献を検討するための省察

オーガナイザー：調 麻佐志 (東京工業大学)

標葉 隆馬 (総合研究大学院大学)

「地震・津波・原発～複合的災害を可能にした社会的背景への接近～」

調 麻佐志 (東京工業大学)

「なぜ私は、そして我々の多くは動けなかったのか」

田中 幹人 (早稲田大学)、丸山 紀一郎 (早稲田大学)、吉永 大祐 (早稲田大学)、標

葉 隆馬 (総合研究大学院大学)

「メディアにおける＜専門家＞情報の構成と課題」

平川 秀幸 (大阪大学)

「溶融する専門知—信頼性はいかにして構築しうるのか？」

藤垣 裕子 (東京大学)

「災害における科学者の社会的責任と STS 研究者の社会的責任」

B-1-3 【WS】 日本の STS は何であったのか：科学技術論の政治社会学

オーガナイザー：木原 英逸 (国士舘大学)

コメンテーター：後藤 邦夫 (学術研究ネット)

木原 英逸 (国士舘大学)

「新自由主義国家における学術の変容：産学連携とモード論」

植田 剛史 (日本学術振興会：慶應義塾大学)

「専門家—非専門家間コミュニケーション構想再考：1990年代後半以降の政府—『市民社会』境界再編下における専門知識/技術の考察」

夏目 賢一 (金沢工業大学)

「日本のグローバル技術戦略と技術者倫理」

藤田 康元 (武蔵大学)

「戦後日本のマルクス主義科学技術論再考」

C-1-3 【GS】 ライフサイエンスを巡る STS①

座長：平田 光司

日高 琴美 (お茶の水女子大学)、白楽 ロックビル (お茶の水女子大学)

「メディアのバイオ政治学：マンガの描く生命科学(者)」

久保田 志桜里 (お茶の水女子大学)、宮本 泰則 (お茶の水女子大学)、白楽 ロックビル (お茶の水女子大学)

「メディアの中のバイオ政治学：新聞の中の生命科学」

立花 浩司 (北陸先端科学技術大学院大学)

「ライフサイエンス分野における研究室教育—多様な人材育成の観点から」

大津 奈津子 (東京大学)、加瀬 郁子 (東京大学)、水島 希 (東京大学)、佐倉 統 (東京大学)

「新聞記事にみられる科学者共同体外部における科学理解—脳ブームを事例として」

D-1-3 【GS】 サイエンスコミュニケーション②

座長：黒田 光太郎

早岡 英介 (北海道大学)

「研究者自ら科学映像コンテンツを制作できるワークフローの開発」

リー 尚子 (筑波大学、理化学研究所)、伊東 真知子 (理化学研究所)

「科学を絵に—科学コミュニケーションツール制作の実践報告—」

伊東 真知子 (理化学研究所)

「研究者自身による科学コミュニケーション活動の動機と話題設定について」

白楽 ロックビル (お茶の水女子大学)

「明治～平成 136 年間の日本の「研究者の事件」：データベース構築と客観的データに基づく分析」

講演者： 行松 泰弘（文部科学省） 「科学技術白書が描いた『科学技術と社会』」

コメンテーター： 小林 傳司（大阪大学）

【休憩】 16:20 - 16:30

16:30 - 17:50 【事務局企画シンポジウム】 「科学技術社会論の課題（仮）」 第2部

パネル討論・総合討論

【懇親会】 18:15 - 20:15

第2日 12月4日（日）

【第1セッション】 09:00 - 10:30

A-2-1 【WS】 原子力問題に関わってきた研究者にとっての福島

オーガナイザー：寿楽 浩太（東京大学）

コメンテーター：松本 三和夫（東京大学）

石山 徳子（明治大学）

「原子力発電と環境人種差別：アメリカ合衆国を事例に」

佐藤 靖（科学技術振興機構）

「緊急時における科学的助言のあり方について」

小田 卓司（東京大学）

「『原子力工学者』の一人として事故後に感じた困難さと課題」

寿楽 浩太（東京大学）

「社会科学者が目にした『原子力工学者』の『苦悩』」

B-2-1 【OS】 不確実な科学的状況と社会的意思決定：科学の現場から考える

オーガナイザー：本堂 毅（東北大学）

久利 美和（東北大学）

「科学の現場から(1) 防災における科学と社会的意思決定」

小林 泰三（九州大学）、平田 光司（総合研究大学院大学）

「科学の現場から(2) 科学技術自身の決定不定性と巨大技術」

本堂 毅（東北大学）

「科学の現場から(3) 科学の適用限界と専門家」

尾内 隆之 (流通経済大学)

「科学の不定性を前提とした民主的意思決定の可能性」

C-2-1 【WS】 市民と専門家の熟議と協働：でこしすプロジェクトの経験

オーガナイザー：平川秀幸 (大阪大学)

山内 保典 (大阪大学)、春日 匠 (大阪大学)、平川 秀幸 (大阪大学)

「熟議キャラバン 2010 の成果と方法論の活用： シティズンシップ教育としての対話実践へ」

加藤 和人 (京都大学)、中川 智絵 (京都大学)

「熟議キャラバン 2010 における参加研究者の意識」

春日 匠 (大阪大学)、山内 保典 (大阪大学)、平川 秀幸 (大阪大学)

「日本版サイエンスショップへ向けた諸問題： 反省と今後の戦略」

D-2-1 【GS】 リスクを巡る視座～地震・津波・原発～

座長：中島 秀人

金 凡性 (広島工業大学)

「明治・昭和三陸津波の記憶と忘却に関する試論」

寺本 剛 (中央大学)

「科学技術の長期的リスクと世代間の公正-高レベル放射性廃棄物の処理方法をめぐって」

蔵田 伸雄 (北海道大学)

「専門家とは誰のことか-福島第一原発事故と非-専門家のリスク判断」

E-2-1 【GS】 ライフサイエンスを巡る STS②

座長：標葉 隆馬

荒内 貴子 (東京大学)、武藤 香織 (東京大学)

「DNA シークエンス技術の展開とヒトゲノム研究への影響」

小門 穂 (大阪教育大学)

「生殖補助医療の規制づくりに対する市民参加の影響-フランス生命倫理法 2011 年改正」

水島 希 (東京大学)、佐倉 統 (東京大学)

「ブレイン・マシン・インターフェイス開発における工学系研究者の視点 ー専門領域の違いによる倫理的・社会的課題の認識の違い」

磯部 太一 (東京大学)、水島 希 (東京大学)、佐倉 統 (東京大学)

「萌芽的な科学技術についての市民関与の事例分析」

【第 2 セッション】 10:40 - 12:10

A-2-2【WS】“ポスト311”原子力ガバナンスにおける諸課題

オーガナイザー：神里 達博（東京大学）

コメンテーター：八木 絵香（大阪大学）

菅原 慎悦（東京大学）

「立地地域における原子力安全をめぐるリスク・ガバナンス」

堀尾 健太（東京大学）

「福島事故の与えた核不拡散・核セキュリティへの含意」

神里 達博（東京大学）

「健康リスク・ガバナンスとしての福島問題（仮）」

上田 昌文（特定非営利法人市民科学研究室）

「市民科学の視点から見た福島問題（仮）」

B-2-2【OS】科学技術社会論への法的思考の導入可能性

オーガナイザー：松原 克志（常磐大学）

松原 克志（常磐大学）

「趣旨説明」

吉良 貴之（常磐大学）

「法的思考と科学的思考の媒介としての科学技術社会論」

小林 史明（明治大学）

「人文学的思考・法的思考・科学的思考の三幅対——『科学裁判』のレトリック分析」

川瀬 貴之（千葉大学）

「国際的な分配的正義論に見る科学と社会の対比」

C-2-2【GS】テクノロジーアセスメント・市民参加①

座長：中村 征樹

吉田 省子（北海道大学）

「GM jury を援用した GM どうみん議会の報告」

杉山 滋郎（北海道大学）、蔵田 伸雄（北海道大学）、斉藤 健（北海道大学）、佐藤 和夫（酪農学園大学）、鳥羽 妙（尚絅学院大学）、平川 全機（北海道大学）、三上 直之（北海道大学）、柳瀬 昇（駒澤大学）、吉田 省子（北海道大学）

「科学技術への市民参加に「討論型世論調査」の手法を活かす可能性～手法の設計を中心に～」

斉藤 健（北海道大学）、蔵田 伸雄（北海道大学）、佐藤 和夫（酪農学園大学）、杉山 滋郎（北海道大学）、鳥羽 妙（尚絅学院大学）、平川 全機（北海道大学）、三上 直之（北海道大学）、柳瀬 昇（駒澤大学）、吉田 省子（北海道大学）

「市民は BSE をめぐる諸問題についてどのように意見を変容させたか～討論型世論調査の結果を踏まえて～」

鬼頭 秀一（東京大学）

「社会構造創成型社会技術の可能性の検討—オンデマンド交通技術の社会技術的展開」

D-2-2【GS】ライフサイエンスを巡る STS③

座長：永田 素彦

渡部 麻衣子（日本学術振興会特別研究員：東京大学）、佐倉 統（東京大学）

「障害概念の形成と技術の開発：ダウン症を事例として」

今井 竜也（金沢大学）

「人体を医療資源とする医療技術の実用化と普及における問題 — 輸血・臓器移植・生殖技術を通じて」

田口 空一郎（東京大学）

「科学・技術ガバナンスとしての医療政策の確立に向けて — 医療安全対策をめぐる政策立案過程を事例に—」

小川 達也（東京大学）

「薬害 C 型肝炎の科学技術社会論的分析」

【昼食】 12:10 - 13:20

【第 3 セッション】 13:20 - 14:50

A-2-3【OS】STS 10+10 特別企画②：若手から見た STS の現在～STS 観・STS 教育・キャリア形成～

オーガナイザー：標葉 隆馬（総合研究大学院大学）、江間 有沙（東京大学）

見上 公一（総合研究大学院大学）

「STS 研究者の時間的・空間的位置を考える」

吉澤 剛（東京大学）

「就職、渡英、成功もしくはピンチ（STS/P）」

小山田 和仁（科学技術振興機構）

「研究開発システム転換期のキャリア形成について～ノンアカデミック・キャリアパスを中心に～」

工藤 充（The Australian National University）

「豪州国立大学での科学コミュニケーション教育・研究」

春日 匠 (大阪大学)

「反学問(カウンターサイエンス)としてのSTSとその未来：学問の現在から考える」

B-2-3 【OS】 萌芽的科学技术をめぐるガバナンスと市民ーフードナノテクからの問いかけ

オーガナイザー：立川 雅司 (茨城大学)

立川 雅司 (茨城大学)

「萌芽的科学技术をめぐるガバナンスとその課題」

高橋 祐一郎 (農林水産政策研究所)

「萌芽的科学技术に向きあう市民?ーNanoTRI・コンセンサス会議からの知見」

三上 直之 (北海道大学)

「萌芽的科学技术に向きあう市民?ーフォーカスグループ・インタビューからの知見」

若松 征男 (東京電機大学)

「東アジアにおける参加型手法適用の比較：日本、韓国、台湾」

C-2-3 【GS】 境界・認識・ネットワークに迫るSTS

座長：伊勢田 哲治

津田 敏秀 (岡山大学)

「科学的合理性と社会的合理性という判断基準の整理」

五島 綾子 (科学著述家・元静岡県立大学)、松田 正己 (東京家政学院大学)

「ナノテクノロジーからナノバイオに至るプロセスとその社会的影響ー曖昧になる自然と人工物の境界領域-」

田中 隆文 (名古屋大学)

「森林水源涵養機能に関して100年以上も続く社会と研究者の認識の乖離」

日比野 愛子 (弘前大学)、福島 真人 (東京大学)

「リサーチテクノロジーの生態学」

D-2-3 【GS】 テクノロジーアセスメント・市民参加②

座長：比屋根 均

八木 絵香 (大阪大学)

「当事者参加型の公的事故調査に関する一考察～公共交通事故における当事者の語りの分析から～」

佐藤 未来子 (東京大学)

「浜通りにおける放射線説明会の意義と課題」

橋本 裕子 (日本科学未来館)

「科学技術と社会を議論するための大規模対話型講義の開発と実践」

E-2-3【WS】テクノロジーアセスメント・市民参加②

オーガナイザー：内山 弘美（愛知教育大学）

パネリスト

吉岡 斉（九州大学）

八巻 俊憲（福島県立田村高等学校／東京工業大学）

15:00 - 15:40 総会

15:40 - 15:50 柿内賢信記念賞研究助成金授与式

【休憩】 15:50 - 16:00

16:00 - 18:00 記念講演会

講演者：中辻 憲夫（京都大学教授）、米本 昌平（東京大学教授）